

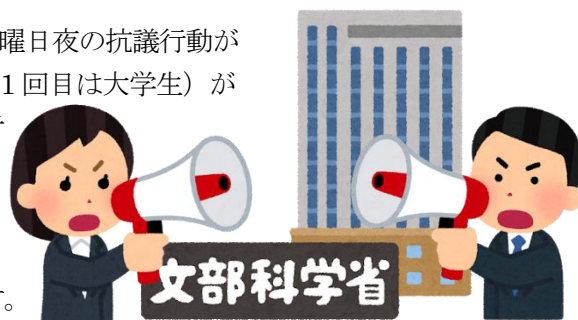
「大学入学共通テスト」の見切り発車は許せない！

英語民間検定の利用中止を 求める声、各地で広がる

9月になって、2021年度大学入試の英語民間検定の利用中止を求める声が広がっています。

○ 高校生が自らの意思で参加する市民集会が生まれる

文科省前では、8月30日、9月6日、9月13日と3週連続で金曜日夜の抗議行動が100人～200人規模でおこなわれました。いずれも、一人の市民（1回目は大学生）がツイッターで呼びかけ、それを見た人がツイッターで拡散し参加者を増やすという形です。全労連や全教が主催する集会・行動とは違って、発言者も流れもコールも臨機応変な感じで、手作り感満載の行動でした。新しい市民運動を目の当たりにしているようで、参加していると非常に新鮮でワクワクします。



この行動がマスコミ報道され、一気に大きな流れができました。新聞・テレビ・ラジオ・週刊誌などが連日この問題を取り上げ、特集を組んで大学入試改革の問題を深堀するところも出てきました。

○ 英語教育の危機的状況に立ち上がる研究者

同時に、6月に緊急署名を提起し国に8000余筆を提出した京都工芸繊維大学の羽藤由美さんたちを始めとする英語の研究者たちがツイッターなどSNSをフル活用して問題点を整理し、中止を求める世論づくりの牽引車的な役割を果たしています。それらを受けて、当事者である高校2年生や保護者のみなさん、高校の担任や進路指導部、英語科の教員などが続々とツイッターでの発信をおこなっています。

○ 各団体も続々意見表明

全教は、8月9日に文科省要請をおこない、2021年度大学入試での民間英語検定利用の中止を強く求めました。さらに、9月4日には、利用中止を求める緊急署名のとりくみを開始しました。

全国高等学校長協会（全高長）は7月25日の文科省への要望書に記した「6項目の不安要素」※が解消されていないとして、9月10日、改めて「2020年4月からの大学入試英語成績提供システムを活用した英語4技能検定の延期及び制度の見直しを求める要望書」を提出しました。

「6項目の不安要素」※

- 1 大学入試として実施される検定試験として、公正・公平の確保が依然として担保されていないこと
- 2 地域格差、経済格差をはじめとする諸課題が、今後短期間のうちに解決する見通しは立っていないこと
- 3 各検定実施団体が、2020年4月からの実施ありきで準備を進めており、その結果新たな不安や負担が生じていること
- 4 この状態でシステムを活用した英語4技能検定の運用が開始されれば、申込みの段階から混乱が起きるのは必至であること
- 5 現高校3年生に対する十分な配慮がなされないままでは今後の指導に大きな支障が出ること
- 6 教育施策の実施に際して、格差を助長することがあってはならないこと



全国大学高専教職員組合（全大教）は9月24日、受験生、保護者、高校の不安を取り除き、公平で安定的な入試を実施するために、2021年度の共通テストでは英語民間試験を利用せず、2022年度以降の実施の可否や内容について慎重に検討するべきです。また、各大学では、あらためて、2021年度の共通テストにおける英語民間試験の利用中止を議論し早期に決定するべきです」との緊急声明を出しました。

9月11日に第4次安倍第2次改造内閣が発足し新しく文科大臣になった萩生田光一氏は、英検の予約金返還に関して発言したものの「やめることによる混乱」を理由に「スケジュールどおりに実施することが前提」と述べ、高校生や保護者、教職員、研究者などの中止を求める声にまったく耳を傾けない姿勢を鮮明にしました。

日本私立中学高校連合会からも全高長と同様の懸念を示しながら、「中断、延期はさらなる混乱を招く」「民間試験の勉強を続ける受験生にストップをかけられない」と、萩生田文科大臣に「確実な実施」を求める要望書を“直接、手渡し”で提出しました。



○ いま立ち止まって再検討することが必要～「受験生ファースト」に～

こうした中、9月18日から英検の予約が始まりました。最初、英検は予約金の返還はおこなわないとしていましたが、世論の高まりに抗しきれず、返還可とせざるを得ませんでした。しかし、返還期間がわずか（10月8日～15日）であることや、他の検定の動向がわからないため英検を捨てて他に申し込む決断をしていいやら、高校2年生の不安と混乱にいつそう拍車をかけることなど、問題山積の状況です。

こうした情勢を踏まえれば、文科省は2021年度大学入試での民間英語検定の利用を中止し、英語も他教科・科目と同じくセンター試験の後継である大学入学共通テストだけで実施する方向で再検討すべきです。予約金は全額返還すればよいだけです。業者は大変不満でしょうが、ここは「受験生ファースト」で考える必要があります。業者より受験生を大事にするのは当然のことです。公教育を民間業者に丸投げするようなやり方は間違っています。



<各種集会・行動などのご紹介>

10月4日（金）16:00～17:00 国立大学協会前抗議行動

19:00～20:30 文科省前抗議行動

※札幌でも18:00～パルコ前で抗議行動第2弾があるそうです

10月13日（日）13:00～17:00 東大経済学部

「新共通テストの2020年度からの実施を止めよう！10・13緊急シンポジウム」

10月27日（日）13:00～16:30 日大文理学部

『学校』という名の魔法（長時間労働とブラック校則を考えるイベント）

署名について

ようやく、全教HPに職場討議資料と署名用紙（萩生田文科大臣バージョン）をUPしました。情勢の変化が激しくなかなかついていくのが大変ですが、続々と職場討議資料をUPしていきますので、全教HPをチェックしてください。



高校のひろば

ツイッターに「高校のひろば」（どこかで聞いたことのあるような…）のアカウントで一連の英語検定利用に関するツイートをまとめました。ツイッターやってる人は

「高校のひろば」で検索してみてください。使える情報がいっぱいあります。また、みなさんのご意見も書き込んでください。おまちしております。

2019年10月2日 編集／全教教文推進委員会 発行／全日本教職員組合（全教）

〒102-0084 東京都千代田区二番町12-1 全国教育文化会館3階 TEL 03-5211-0123/FAX 03-5211-0124

E-mail : zenkyo@educas.jp / URL <http://www.zenkyo.biz/>